

第4回「鳥取県幼児教育振興プログラム」の改訂に係る検討委員会（協議）まとめ

日 時：令和元年7月11日（木）

会 場：中部総合事務所205会議室

(1) 鳥取県幼児教育振興プログラム（案）及び「鳥取県教育振興基本計画」とのつながりについて

章	区分	委員意見
全体		<p>○参考資料の文字、グラフ等を大きくし、読みやすい資料にする。</p> <p>○「第IV章の見方」の様式について →現行プログラムと同様、【推進のための具体的な取組】の見方や資料のマークの意味について、説明を見開き2ページで示す。</p> <p>○現時点の白紙ページについて →現行プログラムと同様、推進の柱ごとに体系表を付ける。 →体裁、余白については、無駄のないよう、また各章ごとの統一した形式とする。 →原稿案28ページは鳥取県の子どもたちの笑顔の写真を掲載する。</p>
第I章 改訂の趣旨		<p>○改訂の趣旨、背景となる考え方について</p> <p><自己肯定感></p> <p>平成30年度「全国学力・学習状況調査」にある問いの「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっているか」の肯定的な答えが低いことを受けて、自分をありのままに認め、夢をもって未来を生きる子どもたちを育みたいという思いが根底に流れている。その第一歩が乳幼児期から始まっており、このプログラムにもこの考え方がベースにある。</p> <p>○自己肯定感には、乳児期のアタッチメント（愛着形成）が重要。その意図が伝わる記載がほしい。 →幼児期という文言を「乳幼児期」と修正し、乳児期の愛着形成・愛着行動について追記する。</p> <p><ふるさとキャリア教育></p> <p>県では、ふるさとを誇りに思い、ふるさとのために行動する子どもを育むことをめざし、「ふるさとキャリア教育」を推進する。 →この考え方を「改訂の趣旨」、推進の柱1「豊かな人間性の醸成」の具体的な取組として一文程度、書き加えることとする。</p>
第II章 鳥取県の現状		<p>○「自己肯定感」は乳児期に愛着形成が培われてこそ育まれるものであることから、5ページ記載は、「乳幼児期から自己肯定感を育み・・・」とすべきである。</p>

<p>第Ⅲ章 めざす 子どもの姿</p>	<p>1 遊びきる 子ども</p>	<p>○1 2 ページのポイント「遊びの中の学び」の例。「表現力がつく」として示してあるが、「表現力」は「コミュニケーション力」など様々なものを含むものであるため、具体的な表現にした方がよい。</p> <p>○「遊びたい」の前段に「楽しい」「楽しむ」があるのではないか。 →「楽しい」は、遊んでいる間、ずっと子どもたちが感じ続けているもので、遊びの前段だけではないと捉えている。</p>
<p>第Ⅳ章 推進の柱と 基本方針 及び目標</p>	<p>推進の柱1 幼児教育の 質の向上</p>	<p>○学校（園）評価という表記の仕方。そもそも園評価という言葉で示してよいのか。</p> <p>→「園評価」という言葉の意味の認識が園種や市町村、関係者それぞれで違うという以下の現状を踏まえ、混乱を招かないように、補足説明をするなど、言葉の使い方や参考資料の示し方の整合性を図る必要がある。</p> <p>《現状》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「園評価」という言葉は国から示されたものではないが、園関係者には、「学校評価」と同様の意味で使われ、浸透した言葉である。 ・資料では保育所における評価を「園評価」と示し、職員の自己評価、園全体の自己評価、第三者評価を合わせたものと捉えている。しかし、保育所は保育所保育指針に沿って「自己評価」、幼稚園や認定こども園は「学校評価」という言葉がなじんでいるところも多い。 ・保育所においては、「保育所における自己評価ガイドライン」に則ったものを「園評価」または「園の評価」ととらえている所が多い。 ・「第三者評価」は費用が高額ということもあり、進んでいない現状がある。 <p>→給付金の加算等の措置についても記載してよいのではないか。</p> <p>→評価が保育の質の担保に不可欠なものであることを踏まえ、「第三者評価」の効果、メリット等を具体的な事例、依頼先等と共に示すことが必要である。</p> <p>→「学校（園）評価」と括弧付けで表記するのではなく、「園の評価・学校評価」と示すこととする。</p> <p>○園の耐震診断や耐震補強の実施状況について</p> <p>→各園において耐震診断、その後の耐震補強等、進んできているが、100%には至っていない。県としてその状況は把握しており、国、県を挙げて実施を推進している状況である。</p> <p>○外国籍や海外から帰国した子ども等、日本語の理解が十分でない子どもや保護者への支援や園の対応、困り感について</p> <p>→「鳥取県国際交流財団」を窓口として対応しており、その支援策やHPを掲載している。必要であれば、対応の手順等も掲載したいと考えている。</p> <p>→パンフレット等があれば、紹介する。</p>

<p>推進の柱2 保育者の資 質向上</p>	<p>○子どもの心に寄り添う「安心な園」について 保育者の資質が大きく関係している。教育者による虐待が起こっている現状も踏まえ、保育者の資質向上の中に子どもの安心を守るという視点を明示してほしい。 →推進の柱1で、保育者の具体的な取組として示している。また、推進の柱2の資料「鳥取県公立学校の教員としての資質の向上に関する指標」の中にも、素養として「児童生徒に対する深い理解と愛情を有している」という項目を挙げている。</p>
<p>推進の柱4 子育て・親 育ち支援の 充実</p>	<p>○「とっとり子育て親育ちプログラム」は、作成にあたって、保護者に自身の子育てを振り返ってもらうことをねらいとしている。子育てを振り返るためのプログラムや研修内容であるという意図を入れた紹介の仕方が望ましい。 ○「自己肯定感」は家庭での親のかかわりが重要である。推進の柱4でも親のかかわり等家庭教育が「自己肯定感」を育むことに大きな役割を果たすことについて記載したほうがよい。 →推進の柱4の冒頭部分に文章で追記する。</p>

(2) 鳥取県幼児教育振興プログラムのサブタイトル

○事務局案「遊びをとおした育ちと学びを未来へつなぐ」について

・幼児期から小学校期、さらにその先の未来へつながっていくイメージがもてるよいタイトルではないか。

・「つなぐ」がポイント。未来へつながるよいタイトル

→「とおした」は漢字の方が読みやすい。

→本文中の原稿で「とおした」をひらがな表記としているが、サブタイトルと統一し、漢字表記に修正する。